伊藤（英）議員（自民議連）

令和元年９月 25 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）ひとを大事にする心の育成について

我々日本人は,自分を大事にする心,そして他者も大事にする心を重んじ,その精神を，長い歴史の中で脈々と受け継いできたことを思い返し，また，未来に継承していくことの重要さを，より一層，学ぶことが必要であり，このことは，日本最古の歴史書である古事記から学ぶことができると私は考える。

そこで，ひとを大事にする心の育成に向けて，古事記を今まで以上に学校教育に取り入れることについて，所見を伺う。

（答）

教育基本法では，教育の目標として，豊かな情操(じょうそう)と道徳心を培(つちか)うことや，自他の敬愛(けいあい)と協力を重んずることなどが規定されております。

これを受け，学校では，人間としての在り方・生き方などを考え，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養(やしな)うことを目指して，教育活動全体を通じた道徳教育を実施しております。

その要(かなめ)となる道徳科の授業では，例えば,「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心を持ち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」「生命の尊さについて,その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること」などについて学習を進めているところでございます。

また，社会科では，「古事記」などに書かれている建国の歴史などの記述を通して，古代の人々のものの考え方や生活を捉えさせることについても学習しております。

県教育委員会といたしましては，引き続き，思いやりの心や感謝の気持ちなど，児童生徒の豊かな心の育成に向けた取組を進めてまいります。